

JAIPE第17回学術集会 連携協働推進委員会主催 ワークショップ

自宅訪問で何に注意するか？ -訪問におけるリスクに注目する-

2024年 **11**月**10**日(日)

14:00~15:50

第2会場(埼玉県立大学北棟大講義室)

参加には、JAIPE第17回学術集会への参加費が必要です。

詳しくは

<http://>

17thjaipe.kenkyuukai.jp/

[special/index.asp?id=43426](http://17thjaipe.kenkyuukai.jp/special/index.asp?id=43426)

開催趣旨

これまで日本保健医療福祉連携教育学会の連携協働推進委員会は毎年の学術集会で、多職種連携・協働(interprofessional work :IPW)の実態・実践について議論し共有する企画を開催してきました。

本年は第17回学術集会が11月10日に埼玉県立大学で開催され、IPW推進委員会もワークショップを企画いたします。

今回のテーマは「自宅訪問で何に注意するか？—訪問におけるリスクに注目する」です。サービス利用者の自宅を訪問する活動で起こりうるリスクに焦点をあて、さまざまな職種の立場、視点、ノウハウを出し合い、共通理解を築くと同時に、リスクに対処するための共通の基盤とスキルを見いだす機会にしたいと思います。

このテーマを選んだ背景には、訪問活動中に生命に関わる事件が発生していること、他者同士である支援者と利用者の双方が心身に傷を負う事例は珍しくないことがあります。

サービス利用者の自宅訪問は、保健、医療、福祉、そして関連する諸分野に共通する活動です。訪問介護や訪問看護、訪問リハビリテーション、訪問診療は介護保険・医療保健で報酬の発生する訪問サービスです。ケアマネジャーが主催するサービス担当者会議もしばしば利用者宅で行われます。自治体の保健師は住民の家を訪問する活動を長年大切にしてきました。社会福祉援助におけるクライアント宅へのアウトリーチもそうです。学校の教師や保育所の保育士の家庭訪問も大切な活動とされてきました。自宅訪問は、対人援助の分野で働く人が特別な経験を蓄積している活動と言えます。自宅訪問には、時代の変化の中で新たにクローズアップされている課題と普遍的な原則、領域間の共通性と領域ごとの特徴を見いだすことができると考えられます。

訪問時に起こりうるリスクを避けるためには、支援者と利用者の安全な関係性を構築する必要があります。そのためには、個々の働き手の専門的なスキルだけでなく、多職種が訪問して支援することを支える地域社会の仕組みや事業所間の関係など、検討すべき点が多々あります。多職種連携のあり方もその重要な構成要素です。

今回のワークショップでは、医療、介護、地域福祉などの領域で訪問活動をされている方のパネルディスカッションを行い、フロア参加者との質疑・討論でこれを深めたいと思います。多くの皆さまにご参加いただけますようお願いいたします。

第1部；シンポジウム ※シンポジストの紹介は裏面

第2部；グループワーク

(フロア参加者と登壇者がグループに分かれて意見交換)

【主催】JAIPE-連携協働推進委員会

【問い合わせ先】 長野大学 社会福祉学部 藤井博之 e-mail: hiroyuki-fujii@nagano.ac.jp

第1部：シンポジスト登壇者

「訪問活動におけるリスク」

大西 弘高 先生(医師；東京大学医学系研究科医学教育国際研究センター医学教育国際協力学)

奈良医大卒、天理よろづ相談所病院、佐賀医科大学、国際医科大学(マレーシア)を経て2005年より現職

「精神訪問看護の立場から」

片山 尚貴 先生(看護師；訪問看護ステーションけあぐ)

訪問看護けあぐはリカバリー志向の精神科訪問看護の提供を意識して取り組む。個人としては、埼玉県精神科事例検討会の運営サポートや、WRAPクラスの運営を行う。現在、WRAPファシリテーター・株式会社CAREG(けあぐ)訪問看護ステーションけあぐ管理者・一般社団法人埼玉県訪問看護ステーション協会理事・埼玉県アウトリーチ研究会副会長を務めている。

「訪問介護の立場から」

山田 康晴 先生(介護福祉士；有限会社ほっとらいふ)

美術大学卒業後、各種ビジュアルデザインに携わる。2014年転向し同法人に入職。2018年より訪問介護部門管理者に、2022年に定期巡回部門を開設し兼任。現在管理者兼サービス提供責任者。

「訪問リハの立場から」

浦島 美緒 先生(理学療法士；柳原リハビリテーション病院)

柳原リハビリテーション病院入職後、回復期病棟、障害者病棟にて勤務。法人内の老人保健施設、院内通所リハへの異動を経験し現在は当院の居宅リハ部門主任として通所リハ、訪問リハに従事している。

「介護支援専門員の立場から」

大羽 孝児 先生(社会福祉士・主任介護支援専門員；

特別養護老人ホームけいあいの郷山王台)

大学の社会福祉学科を卒業し、特別養護老人ホームの生活相談員として就職。施設ケアマネジャーを兼務。老人保健施設ケアマネジャーや、居宅介護支援事業所管理者として従事。相談援助職向けワークショップの運営メンバー。現在、特別養護老人ホームけいあいの郷山王台事務相談課課長。

座長：大西 弘高 先生 (東京大学医学系研究科医学教育国際研究センター)

小川 孔美 先生 (埼玉県立大学保健医療福祉学部 准教授)

2004年日本女子大学大学院人間社会研究科社会福祉学専攻後期博士課程単位取得満期退学。2003年埼玉県立大学に勤務、2019年より現職。専門分野は高齢者福祉、高齢者虐待防止、専門職連携教育(IPE)&専門職連携実践。学外では、埼玉埼玉葛南専門職連携推進ネットワーク、春日部市、草加市、三郷市などの各種審議会・運営協議会などで活動。

コーディネータ：藤井 博之 (JAIPE/IPW推進委員会、長野大学社会福祉学部教授)